

若者未来デザイン会議 開催概要



(知事と川上小学校の皆さん)

1. 日 時

令和8年7月7日（火） 13:00～14:00

2. 場 所

中津川市立川上小学校

3. 参加者

川上小学校全校児童 19名

知事、知事公室長、商工労働部長、観光文化スポーツ部次長（観光国際担当）、
リニア未来都市局副局長、県教育委員会義務教育総括監

4. タイトル

「川上の魅力を活かした“これからの川上”実現に必要なこと」

5. 知事への提案

○提案概要

①学校をみんながあつまる場所にしよう（1・2年生）

- ・川上に人が住み続けるために、使わなくなる学校を地域みんなが集まれる場所として活用したい。小学校の思い出である体育館での遊びを生かし、体育館を楽しめる場所にしたい。
- ・トランポリンや空気で膨らませる滑り台、カラーボールプールを設置するほか、お泊り会やお化け屋敷、体育館の巨大スクリーンでの映画鑑賞、プールの利用など、みんなが楽しめることを実施したい。また、猫カフェや犬カフェを開き、地域の方が集まれる場所を作りたい。
- ・さらに、川上小学校の自慢であるスケート場を今後も活用し、地域みんなでスケ

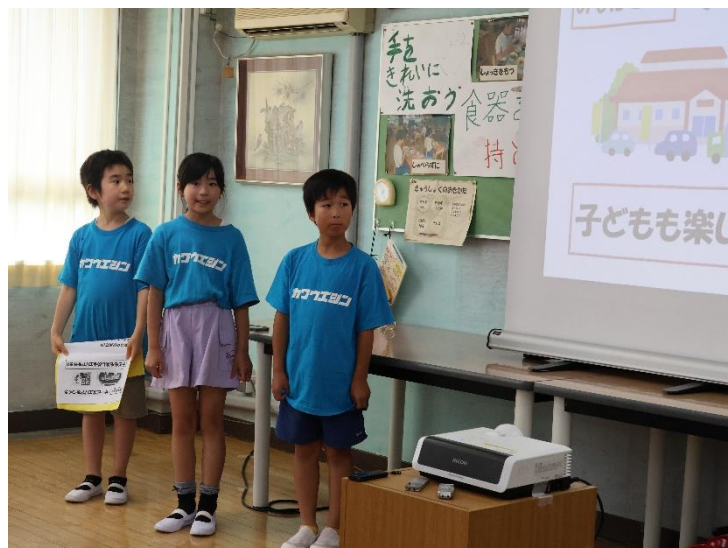
ートを楽しめるようにしたい。

- ・学校はなくなってしまうが、学校を活用した楽しい活動が続けることで、川上に住み続けたいと思える地域にしたい。



②すみやすい川上を目指して ～川上未来デザイン～（３・４年生）

- ・リニア中央新幹線の開通によって多くの人が訪れることを見据え、道路や高速道路の整備について考えた。人が来やすくなる環境をつくることで、川上をより活気のある地域にしたい。
- ・また、サービスエリアを整備し、川上の良さをたくさんの人に知ってもらいたい。
- ・サービスエリアでは、五平餅や飛騨牛、加子母トマト、栗きんとんなど中津川市の特産品を使ったお弁当やお土産を販売したい。また、栗きんとんを使った「シュー栗一夢」や川上のきれいな水を生かしたサイダーなどのオリジナル商品の販売も実施し、地域の魅力を知ってもらいたい。
- ・多くの人に川上を訪れてもらい、おいしい食べ物やお土産を通して川上の魅力を知ってもらいたいと考える一方で、お金がかかることや自然への影響も課題である。みんなが幸せに暮らせる未来を目指したい。



③自然を守る会 ～川上の自然を未来まで～（５・６年生）

- ・川上の豊かな自然をこれからも守っていくため、「自然を守る会」をつくりたい。川上は空気や川がきれいで、自然が豊かな夕森公園に多くの観光客が訪れるため、その魅力を大切に守り続けたいと考えた。
- ・一方で、バス停や橋、通学路、川などにごみが落ちていることが課題である。
- ・そこで、定期的なごみ拾いや清掃活動を行い、地域のみんなで自然を守る取り組み

を進めたい。清掃活動では、ごみ拾いだけでなく、草取りや木の手入れ、川の整備なども行いたい。また、参加者には地域で使える商品券を配り、多くの人に参加してもらえる仕組みをつくりたい。

- ・さらに、観光客が多く訪れる夕森公園の周辺やバス停、橋などにごみ箱を設置し、「自然を守ろう」「ポイ捨て禁止」などの看板を設置して、ごみの減少につなげることで、これからも多くの観光客に訪れてもらえる地域にしたい。



④みんなの釣り場 ～自由に 楽しく 安全に～（５・６年生）

- ・川上のきれいな川をもっと多くの人に楽しんでもらうため、子どもでも安全に利用できる釣り場をつくりたい。現在も川で釣りを楽しむ人はいるが、子どもには危険な場所もあるため、安心して自由に釣りができる場所が必要だと考えた。
- ・子どもは無料、大人は利用料を支払う仕組みにすることで、地域の収入にもつなげたい。
- ・設置場所は、「かたらいの里」の前としたい。この場所で昨年度、カワゲラウォッチングを行ったところ、カワゲラがたくさんいるきれいな川だとわかり、釣り場に適していると考えた。
- ・さらに、釣りを楽しんだ後に温泉を利用してもらうことで、地域の魅力をより感じてもらいたい。釣りや自然、温泉を組み合わせることで、多くの人に川上を訪れてもらい地域の活性化につなげたい。



⑤かたらいの里の活用について ～イベントを計画しよう～（５・６年生）

- ・かたらいの里で、小さな子どもから高齢者までさまざまな世代が集まり交流できるイベントを行いたい。
- ・その背景には、デイサービスセンターや川上保育園が利用者の減少により閉鎖されたことがある。高齢者や小さな子どもが地域の中で気軽に集まれる場所や機会が必要だと考えた。
- ・また、かたらいの里も現在利用者を増やすためにさまざまなイベントを実施しており、地域の店舗や団体と協力しながらにぎわいづくりに取り組んでいることにも着目した。そこで、さらに多くの人が集まるきっかけとして、「昔の遊び」をテーマにしたイベントを実施したい。
- ・昔の遊びであれば、小さな子どもから高齢者まで一緒に楽しむことができる。子どもたちは昔の暮らしや遊びに興味を持ち、高齢者は子どもたちとの交流を通して元気になれる。
- ・岐阜県内の他の地域でも同じような悩みを抱えているのではないかと思うので、誰もが気軽に集まり、交流できる場所を地域の中に作ることができたら良いと思う。



○知事のコメント

１・２年生の提案については、学校を生かそうという発想がとても良かった。トランポリンや滑り台、お泊まり会などのアイデアにも魅力を感じた。また、地域のスケート場という資源も生かしながら、これからいろんな人が集まってくるように、大人の皆さんが協力いただけると素晴らしいかなと思う。

３・４年生の提案については、人が集まることで地域の課題解決につながるという点が特に良かった。リニア中央新幹線が開業すると、川上の自然や暮らしは東京の人たちにとって大きな魅力になると感じている。お弁当の提案も印象的で、都会の方たちにとって、その価値は思っている以上に評価される可能性がある。特に「シュー栗一夢」はとても面白いアイデアで、それを買うためだけに訪れたいと思う人がいてもおかしくないほど魅力的だった。

５・６年生の提案については、自然を守りながら活用していこうという考え方が良かった。特に釣り場の提案は、都会の人たちにとって大きな魅力になる可能性がある。また、

川遊びを安全に楽しめる環境づくりも大切であり、地域の子どもたちが川の知識や安全な遊び方を伝えることで、訪れる人たちに安心して楽しんでもらえるのではないかと感じた。イベントは一度来た人が「また来たい」と思える場所にすることが大切であり、そのための工夫を考えていくことが重要。

全体を通して、どの提案からも川上の自然や地域の魅力を生かしたいという思いが伝わってきた。リニア開業によって、今後さらに多くの人を訪れる可能性がある中で、地域の魅力をどう生かし、どう守っていくかを今から考えていることが素晴らしかった。今回の発表からは、川上の将来につながる多くのヒントをもらうことができ、とても感動した。

○商工労働部長のコメント

3・4年生の提案からはたくさんの良いアイデアをもらった。特に「シュー栗一夢」はとても魅力的で、将来は日本を代表するお土産になる可能性も感じた。サイダーやビールの提案も素晴らしく、国内だけでなく海外から訪れる人たちに中津川や岐阜県、日本の良いものを発信できる商品になるのではないかなと思う。

○リニア未来都市局副局長のコメント

岐阜県では、リニア中央新幹線の開業を見据えて将来のまちづくりを進めているが、今回の提案にはそのヒントが数多く含まれていた。国内外から人が訪れ、住み、働きたいと思える地域づくりや、地域の魅力を高めるという考え方は県が目指す方向とも一致している。子どもたちが今から地域の未来を考え、自分たちで中津川を盛り上げようとしていることがとても嬉しかった。

○観光文化スポーツ部次長のコメント

お泊まり会や学校を活用したイベントは、地域の子どもたちだけでなく外から来る人たちも楽しめる魅力的なアイデアだと感じた。猫カフェや犬カフェについても、ペットと一緒に旅行を楽しみたい人が増えている今の時代に合った発想であり、川上を訪れるきっかけになる可能性がある。また、お弁当の提案はとても参考になり、食を観光の魅力として発信するという世界でも通用する考え方ができていることに感心した。

○義務教育総括監のコメント

今回の発表で何より良かったのは、どのチームも「こうしてほしい」ではなく、「こうしたい」という言葉で提案していたことだった。誰かに任せるのではなく、自分たちで地域や学校を良くしたいという思いが強く感じられ、とても頼もしく思った。また、学年ごとの提案には共通する部分も多く、チームの枠を越えて一緒に考えることで、さらに良い提案に発展していく可能性を感じた。新しい学校づくりに向けても、その主体的な気持ちを大切にしてほしいし、私たち大人もこうしたいという気持ちをもって働いていきたい。